

第1章 聖徳グループ保育理念

評価基準

A. はい

B. いいえ

C. 該当なし

		項目	ページ	評価	評価・課題
第1章	聖徳グループ保育理念	園の保育理念や基本方針 真宗保育の理念 聖徳グループ職員という意識 職務分担	1~10	A	聖徳グループの保育理念に基づいた保育の実践を行う事が出来ている。職員としてふさわしい態度や行動に努めている。

第2章 総則

		項目	ページ	評価	評価・課題
第2章 総則	① 保育所保育に関する基本原則	保育所保育に関する基本原則 ・保育所の役割 ・保育の目標 ・保育の方法 ・保育環境 ・保育所の社会的責任	11~22	A	保育所保育における基本原則に沿って、保育士として正しい姿勢で保育に臨む事が出来ている。
	② 養護に関する基本的事項	養護に関する基本的事項 ・養護の理念 ・生命の保持 ・情緒の安定	23~35	A	乳幼児期の子どもの発達過程や特性を理解し、一人ひとりに目を向けた保育の提供が出来ている。
	保育の計画及び評価	・全体的な計画の作成 ・指導計画の展開 ・保育内容等の評価 ・評価を踏まえた計画の改善	36~41	A	聖徳グループの保育計画に沿って、適切な指導計画の立案がされている。また、それらの評価反省を踏まえた、計画の改善にも取り組んでいる。
	保育の計画及び評価	保育の内容 ① 保育の環境	42~50	A	季節を意識した環境設定や作品製作を心がけている。
		保育の内容 ② 乳児保育	51~72	A	乳幼児が安心して過ごせる関わりに努め、一人ひとりを大切にしている。
		保育の内容 ③ 長時間保育	73~78	A	子どもの気持ちに寄り添い、降園まで楽しく過ごせるように努めている。
		保育の内容 ④ 障害がある子どもの保育	79~89	A	園内での情報共有を行い、その子にとって適切な対応が出来るよう努めている。また、専門機関との連携も行っている。
		保育の内容 ⑤ 子どもの人権	90~96	A	一人ひとりを尊重し、子どもの人権に配慮した関わりが持てている。

第3章 保育の内容

		項目	ページ	評価	評価・課題
第3章 保育の内容	保育の内容 ねらい	乳幼児期に関わるねらいと内容	97~112	A	子どもの思いに寄り添い、一人ひとりに合わせた保育を行っている。
		教育 3歳未満児保育 (1.2歳児保育) ① 健康	113~125	A	健康的な生活習慣が身に付くよう、活動や関わりに配慮した保育の実践を行っている。
		教育 3歳未満児保育 (1.2歳児保育) ② 人間関係	126~142	A	保育士や友だちとの関わりを通して、思いが伝わることの喜びや楽しさが感じられるよう努めている。
		教育 3歳未満児保育 (1.2歳児保育) ③ 環境	143~158	A	身近な自然に触れる機会を大切にしている。
		教育 3歳未満児保育 (1.2歳児保育) ④ 言葉	159~177	A	正しく丁寧な言葉かけに努め、子どもからの問いかけにも優しく対応している。
		教育 3歳未満児保育 (1.2歳児保育) ⑤ 表現	178~190	A	活動に様々な表現方法を取り入れ、子どもの興味を引くよう工夫した保育を行っている。
		教育 3歳以上児保育 ① 健康	191~203	A	戸外で十分に体を動かす機会を設け、健康な体作りに努めている。
		教育 3歳以上児保育	204~220	A	様々な経験を通して、物事のルールや人との関

		② 人間関係	204～220	A	わり方が身に付くよう援助している。
		教育 3歳以上児保育	221～236	A	子どもの興味や探究心が刺激されるような環境設定に努め、命の尊さや季節を感じられる保育を行っている。
		③ 環境			
		教育 3歳以上児保育	237～255	A	子どもが自分の言葉で表現する機会を大切にし、思いが伝わる喜びや安心感が感じられるように関わっている。
		④ 言葉			
		教育 3歳以上児保育	256～268	A	様々な表現の機会を設け、表現の楽しさを感じられるように努めている。
		⑤ 表現			
	保育の内容の留意事項	① 保育課程	269～273	A	聖徳グループの保育理念に沿った保育の実践が行われている。
		② 指導計画 策定	274～291	A	全体計画に基づいた適切な指導計画がたてられている。
		小学校との連携	292～300	A	小学校との連携には、前向きに取り組んでいる。
		保育内容の自己評価	301～309	A	職員皆が保育に真剣に取り組み、子ども達の為に尽力している。園長や主任からのアドバイスも真摯に受け止める。

第4章 健康及び安全

		項目	番号	評価	評価・課題
第4章 健康及び 安全	子どもの健康支援	子どもの健康支援	310～321	A	子どもの健康状態については、家庭と連携し適切に対応している。
	食育の推進	食育の推進	322～335	A	献立ボードの活用や野菜の栽培を通して、食の大切さを伝えている。
	環境及び衛生管理	環境及び衛生管理	336～341	A	マニュアルに従い、正しく衛生管理を行っている。
	災害への備え	・安全管理 ・災害への備え	342～349	A	避難訓練や防犯訓練を通し、安全への意識向上に努めている。

第5章 保護者に対する支援

		項目	番号	評価	評価・課題
第5章 保護者に対する 支援	入所している保護者に対する支援	保育園に入所している子どもの保護者に対する支援	350～361	A	保護者からの相談には随時対応し、家庭と連携して子どもの成長を促せるよう努めている。
	地域における子育て支援	地域における子育て支援	362～365	A	子育て支援の利用者からの相談にも対応し、地域における保育園の役割に努めている。
	地域や関係機関との連携	地域や関係機関との連携	366～371	A	ボランティアや職場体験を通して、園関係者以外の方との関りにも取り組んでいる。

第6章 職員の資質向上

		項目	番号	評価	評価・課題
第6章 職員の 資質向上	職員の資質向上	・職員の資質向上 ・職員の研修 ・研修の実施体制	372～385	A	研修計画に沿って研修を受けることで、職員それぞれのスキルアップが図られている。

【園全体の評価】

今年度初めには、ステートメントブックの読み合わせを行い、職員間の共通理解を図った。

また、日常的には、職員会議等で、以上時会議や未満児会議に意識を持って取り組み、個々の保育の振り返りや改善等について話し合うことにより、全体評価の結果A評価が得られたことは、とても嬉しいことであった。しがしながら、法人方針や保育方針等の理解については、まだまだ、曖昧な理解を感じるところもある。一人一人の職員保育士が、法人保育について、だれでも共通した自信を持った園理解、保育理解が出来ることを目指していきたい。

【来年度の課題】

- ・ 保育所保育指針からの学び、法人方針のもとに真宗保育×自主的個別保育の理解を深め合い養護と教育をかねた保育の実践に活かしていく。
- ・ 大谷保育協会による仏教保育研修へ積極的な参加を促し、真の保育の真髄を学ぶ機会を通し自己研鑽に努めるようすすめていく。
- ・ ICTシステム(ルミ-)の活用拡充により、保育士のレベルアップ、スキルアップとなる時間を確保し、さらなる保育の充実を目指す。
- ・ 療育支援、小学校との連携等、子どもの発達支援について、常に新しい情報を共有し合い適した保育の実践に務める。
- ・ 園内研修の議題を明確にし、法人理解と保育理解を深めていく。また、モンテッソーリ勉強会の定期的な実施等基本の研修を見直して進めていく。

2025年度2月25日

社会福祉法人聖徳福祉会

森山聖徳保育園 本田 真理子